

平成 25 年度 青少年問題を考える地域懇話会

当協会では市町村民会議の活動を支援するため、地域の青少年問題について、有識者と地域の活動指導者が意見交換等を行う「青少年問題を考える地域懇話会」を開催しています。平成25年度は網走市（11月）、洞爺湖町（2月）の2箇所で、それぞれの青少年育成市町村民会議と共催して開催しました。

両会場では、青少年の健全育成のための課題や解決策について、地域の活動指導者からの発表を基に有識者の助言やグループ討論からの意見も交え、活発な意見交換が行われました。

【網走市】 テーマ「子どもの豊かな心を育てるために」

～学校・家庭・地域がどのように連携して心を育てていけばよいか～

- 共 催 網走市豊かな心を育てる活動推進会議
- 講 師 北海道教育大学釧路校教育科学科教授 玉井 康之
演題：子どもたちの潜在的な心のゆれについて
- 発表者 網走市子ども会育成連合会会長 松井 弘
こどもみらい事務局長 佐藤 知義
- コーディネーター オホーツク教育局社会教育指導班主査 会田 大祐



● 概 要

基調講演では、①子どもたちの発達には、失敗と戻る場所、頑張ろうとする繰り返しが大切、②教育の最終的な目的は自立であり、小さいときから豊かな体験をさせることが心を育てる上で必要と話されました。2名の発表者からは、日頃の活動内容として、子ども会の活動や児童の心の居場所づくりについての発表があり、課題としては、①少子化に伴う会員の減少や指導者不足の問題、②活動経費の問題やコーディネーターの育成、③学校・PTAの連携強化などがあげられました。

全体の意見交流では、異年齢同士の活動の工夫についての質問があり、講師から「子ども会なら、大人は手を出さないでやらせる。また、違う年齢の組み合わせになるようゲームやプログラムを意図的に組み入れる。」と話され、発表者からは「上級生を指導的な立場に立たせ、低学年とコンビを組ませるとよい。」という意見もありました。

最後に、コーディネーターが「親同士、学校、育成者のネットワークづくりが、地域で子どもを守ることにつながる。」とまとめました。

【洞爺湖町】 テーマ「地域で大人が何をすべきか～あなたならどうする、どうしたい～」

- 共 催 洞爺湖町青少年健全育成連絡協議会
- 提言者 (地独)道立総合研究機構北方建築総合研究所研究主任 松村 博文
- 発表者 とうや子ども共和国実行委員会委員長 木村 省平
とうや湖レクリエーションクラブ事務局長 齊藤 敬子
- コーディネーター 胆振教育局社会教育指導班主査 山田 智章



● 概 要

2名の発表者から、所属の活動内容として、①七夕という日本の伝統的な行事を子どもが主体となって取り組む活動、②昔遊びや異世代交流についての発表があり、課題としては、①単位子ども会の小規模化、②事業のマンネリ化、③子どもの参加数の減少、④スタッフの高齢化、⑤少年団との日程調整などが挙げられました。

提言者からは、旭川市の子どもの安全を守る「近文あい運動」を事例に「子どものための活動はみんなを集める力があり、それが地域コミュニティの再構築につながる。」と提言されました。

意見交流では、「大人は何をしなければならぬか」をテーマにグループ討論をしました。各グループから、①参加人数の多少ではなく参加している者が楽しめる活動を目指したい、②子育て世代が参加できる体制をつくる、③地域の良さを伝える活動を続けていく、④子どもたちが主体的に活動することを大切にする、などの発表がありました。

提言者からは、「グループ発表から、洞爺湖町は社会教育が盛んな地域であることがわかる。先進的な地域なのだから、それぞれの思いを大切に活動を継続してほしい。」と助言がありました。

最後に、コーディネーターが「意見交流で見つけられた方向を地域で実践してほしい。」とまとめました。